

施策	27	文化芸術の振興	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり
施策主管課	文化会館	課長名	宮沢 正隆	内線	4220
政策担当部長名	教育次長 三浦伸一				
施策関係課名	生涯学習・スポーツ課、美術博物館、中央図書館、公民館				
重点施策	○	関連計画	地育力向上連携システム推進計画、文化芸術振興基本方針		

1 施策の目的

目的	対象	市民
意図	①いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ ②自己表現の機会が得られる ③文化活動を主体的に担う ※①の意図は、「日常的に文化芸術に親しむこと」と定義する。	

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
① 住民人口	人	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	101,743	100,957			
成果指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向	
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理											
① 文化芸術を鑑賞したことがある人の割合	%	63.6	62.7	60.6	58.5	53.9	54.3	63.6	65.0	△	
② 文化芸術活動を行っている人の割合	%	29.4	26.0	27.8	29.6	27.8	26.5	23.1	33.0	△	

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムツ指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
行政	①文化芸術を鑑賞し、活動を行える施設を整備する。 ②文化芸術に関する情報を収集し、提供する。 ③文化芸術の担い手を育成する。 ④小中学校、高校で文化芸術の担い手を育成する。 ⑤市民等による鑑賞機会の提供、創造活動、ネットワーク作り活動を支援する。	①-1文化芸術施設数(文化会館、人形劇場、公民館(地区館を含む)、美博、黒田人形浄瑠璃伝承館、今田人形館、竹田人形館、川本人形美術館、創造館 単位:館)	①-1 30	30	30	30	30	30	○
		①-2文化芸術施設延べ利用者数(①の施設の利用者数の計 単位:人)	①-2 1,006,638	1,017,188	1,011,944	978,594	986,019	102万	△
		②-1ホームページ開設数(実績把握 単位:個)	②-1 12	13	17	17	17	11	○
		②-2市広報誌等掲載回数(実績把握 単位:回)	②-2 427	372	467	479	622	210	◎
		③担い手育成事業数(実績把握 単位:回)	③ 906	860	861	899	1,022	400	◎
		④小中学校、高校で実施した担い手育成事業数	④ 108	130	146	171	203	150	◎
		⑤-1文化活動や創作活動を支援した団体数(文化系社会教育団体、施設利用減免団体、その他育成団体 単位:団体)	⑤-1 83	97	111	127	120	100	◎
			⑤-2 1,774	1,834	1,719	1,667	1,683	1,700	○

主体	役割分担	ムツ指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)
個人	①文化芸術を鑑賞する。 ②文化芸術活動を行う。	①文化芸術活動を鑑賞した回数 ②文化芸術活動を行った回数	和太鼓、獅子舞、ダンスなど多様なジャンルの文化芸術活動に、自ら取り組む市民が増えている。
市民等	①文化芸術を観賞し活動を行える機会を提供する ②文化芸術活動の担い手のネットワークをつくる ③地域の文化芸術活動への積極的な支援を行う	①鑑賞又は活動機会の提供を実施した回数 ②-1ネットワークの数 ②-2文化芸術活動を企画運営する実行委員数 ③支援を行った回数	・H25、オケ友音楽祭5周年事業(四方恭子リサイタル、第9演奏会)、人形劇フェスタ15周年記念アジアフェスティバルを開催。 ・H25、NPO法人いいだ人形劇センター発足。人形劇公演事業、創造支援事業を展開。H26からは、川本人形館の指定管理者となり、相乗効果を発揮した活動が行われている。 ・H26、いいだ人形劇フェスタ実行委員会は、通常開催年として初めて6日間の会期で実施。特集として、人形劇の盛んな地域を取り上げ、交流が行われるようになった。 ・H27、実行委員会からの要望を受け、人形劇フェスタ20年を記念し、H30に世界人形劇フェスティバルを開催することを決定する。

役割の発揮状況

後期(5箇年)	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	・文化の主体は市民である。多様な主体の協働を推進するために、「文化芸術振興基本方針」の役割を尊重した取組みを進めた。 ・文化会館が取り組む文化芸術活動においては、市民中心、主導による多様な主体の協働による活動が行われるよう、すべて実行委員会を構成して実施した。 ・美博の市民ギャラリーを市民団体の発表の場として利用してもらってきた。また、地元的美術家団体と美博が実行委員会を結成して「現代の創造展」を開催し、市民の芸術文化への関心を高めてきている。 ・文化芸術振興政策において大切にしていることは、練習や学習、発表の場として公民館、文化会館等の施設の利用がしやすいことであり、そのことを堅守してきた。
	多様な主体の協働を推進していくための課題	・飯田の文化の特徴は、市民の主体的な運営にあるが、現状では担い手、実行委員会の構成員が固定化しており、新たな担い手の確保が課題である。

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。	・リニア時代に対応して、新しい文化芸術拠点施設の整備が求められている。(議会一般質問、文化芸術関係団体、市政懇談会) ・文化芸術活動の拠点施設として、ホール施設の改修、環境整備が求められている。(文化芸術関係団体) ・人形劇を鑑賞できる状態を日常化させ、市民のほか観光客が鑑賞できるような取組みを検討できないか。(基本構想基本計画推進委員会) ・リニア時代を迎えるために、菱田春草生誕140周年記念事業の成果を踏まえ、開館以来の美術博物館のテーマである「菱田春草常設展」を実現し、市民だけでなく多くの人に優れた美術を鑑賞できる場を提供することが必要である。(美博協議会) ・多様化する人々の文化芸術へのニーズに全て応えることは難しいが、表現することや紹介することへの市民参加がしやすいような事業を充実していく必要がある。(美博評議員会) ・若者の参加、紹介、活躍の場を広めていく必要がある。(現代の創造展実行委員会)
施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。	・公共施設マネジメント基本方針優先検討施設として、文化会館、市公、鼎公の3つのホール施設のあり方について平成28年度までに検討する。 ・リニア時代に対応して、一流の文化芸術に親しめる施設の整備、事業の実施を求める意見と、市民主体、協働による文化芸術活動に重点を置くべきとの意見がある。 ・人々の価値観や趣味嗜好は多様化しつつも、ストレス社会と言われるなか、多くの人が心の豊かさを求めて、芸術文化に接するようになってきている。近年、こうした人々のニーズに応えるような展示やイベントが多く行われるようになってきている。また、人々の価値観やニーズ、ライフスタイルの多様化に応じ、文化芸術のジャンルや文化芸術への接し方も多様化しており、いろいろなことが模索されているが、それらを踏まえた施策や事業が求められるようになってきている。

4 評価結果(後期5箇年)

(1)実施した事務事業の評価(取組みの状況評価) (2)施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

【評価結果の理由】

○成果指標である「文化芸術を鑑賞したことのある人の割合」は63.6%であり、H22から減少傾向であったが、H27以降は増加している。近年は、スマホやタブレット端末の普及により、劇場等へ足を運ぶことなく、さまざまな手法により文化芸術を享受している人が増えている。
一方、「文化芸術活動を行っている人の割合」については、H23の26.0%からH28は23.1%と減少傾向にある。少人数の音楽演奏団体が増えていたり、美術博物館の「現代の創造展」の観覧者数の増加や市民ギャラリーでの市民団体の写真展などが増えているように、市民意識調査が想定しているよりも文化芸術の幅や対象が広がってきていることや文化芸術活動が生活の一部になっている状態が見られ、市民の文化芸術活動は減少しているとは言えない。
また、文化会館等が市民と協働して取り組んでいる人形劇、オケ友音楽祭、伊那谷文化芸術祭等の文化芸術活動における鑑賞者の人数には、減少する傾向は見られない。これら、市民が事業の企画・運営に主体的に参画する飯田の特徴的な活動への市民の参加意識が高いことを示すものである。
これらのことを総合的に勘案し、全体として「ある程度進んだ」と評価する。

【事務事業群テーマ別の評価】

(文化芸術施設の整備・維持管理)

- 文化会館ホール照明設備及び電気設備の更新工事など、計画的な施設・設備の改修など利用者の利便向上を行っている。
- 文化会館ホームページに利用団体の実施する事業の紹介を掲載している。
- 美術博物館では、作品や資料の寄贈や寄託が増え、収蔵庫等が手狭になってきている。

(参加しやすい鑑賞機会の提供)

- H26から、人形劇フェスタの開催期間を見直し、通常開催年の開催期間を6日間とした。また、連携して美術博物館等の公共施設の無料入館を行っている。
- H30世界人形劇フェスティバルの開催を決定し準備を進めている。
- オケ友音楽祭は、「学ぶ」「楽しむ」「広める」を基本理念として、さまざまな事業を行っている。
- 若者から高齢者までを対象としてさまざまな分野の舞台芸術を開催することにより、文化芸術鑑賞における裾野を広げるよう取り組んでいる。
- 美術博物館では、美術への関心を高めてもらえるように、館蔵品を中心に「作品や作者を味わう」ような展示を展開している。
- 親しみやすい美術博物館となるように、「美博まつり」や「櫻と夜間開館」、「ミュージアムコンサート」などを行うとともに、「年間パスポート」の種類を見直したことで、利便性が向上した。
- 美術博物館では、人形劇フェスタ期間中に美術博物館を会場に行われる人形劇公演に合わせて、プラネタリウムオリジナル番組「人形劇のまちいいだ」の上映を行い、フェスタ参加者へのサービス提供を行っている。
- 美術博物館のプラネタリウム上映では、子ども達が天文への興味を喚起するように、「名探偵コナン」や「星の王子様」などのキャラクターが登場する番組の上映を行っているほか、夏休み等の期間にオリジナル番組の集中上映や解説付き上映を行うなど、市民が鑑賞しやすい工夫をしている。また、天文教育用に制作された番組を購入した。
- 美術博物館の「現代の創造展」では、実行委員が案内書書を利用して鑑賞を呼びかけるなどしており、鑑賞者増につながっている。

(自己表現の機会の提供)

- フィギュアアジアタ・デザインコースや人形劇ワークショップ(第3期)を実施した。
- 小・中学校における人形劇制作の取り組みに対し、講師派遣、指導者研修、中学生合同講習会の実施等による支援を地域と連携・協働で行い、子どもたちの創造性、表現力の向上に取り組んでいる。
- 伊那谷文化芸術祭を市民団体と協働開催し、舞台芸術の発表の機会を提供している。
- 美術博物館では、「現代の創造展」や「子ども美術学校」、「小中高生写真作品展」、「小中学校郡展優秀作品展」「風越高校書道部展」を開催し、作品制作と展示紹介を行うことにより、自己表現をする機会を提供している。特に、「子ども美術学校」の参加希望者は増え傾向にあり、学校教育では担えない自己表現の場として認知されてきている。また、市民団体の発表の場として利用されている美術博物館の市民ギャラリーは、年1回の利用調整会議においてほぼ年間の利用スケジュールが一杯になる状況である。

(文化芸術の担い手育成)

- オケ友音楽祭クリニックでは、地元演奏家による事前練習や、基礎コースを行うことにより、音楽クリニックの効果をより高めることができた。
- フィギュアアジアタ・デザインコースや人形劇ワークショップ(第3期)の実施により、参加者が、脚本制作や美術制作に関する専門的な知識、技術を学ぶ機会を提供している。
- 特別に芸術鑑賞できる「美術博物館年間パスポート」会員向けの講座等を開催し、文化芸術の魅力を深める機会を提供している。また、「子ども美術学校」や「子ども写真学校」、「現代の創造展」を行うことで、担い手の育成にも取り組んでいる。
- 「伊那谷の自然と文化」に係る市民研究団体の活動を支援し、一緒に事業を展開している。

(文化芸術による交流)

- 人形劇フェスタでは、人形劇活動の盛んな地域との交流を図るため、北海道、愛知を特集として取り上げ、相互の人形劇の鑑賞、情報・技術の交換、交流を行った。
- 人形劇の友・友好都市国際協会(通称AVIAMA)への参加を通して、人形劇のまちづくりによる小さな世界都市の実現に向けて取り組みを進めた。
- 美術博物館では、神奈川県立自然史博物館から岩石等の資料を借用する一方、大分県立美術館や真田宝物館、長野市博物館、美術雑誌等に当館が所蔵する作品や資料を貸し出す等の交流を行った。

6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

市民主体、多様な主体の協働による文化芸術活動の推進及び人形劇を通じた「小さな世界都市」づくりのため、次の事項に取り組む。
また今後さらに、幅広いジャンルや市民の皆さんの各層(年代、性別など)ごとの嗜好等を反映しながら、市民参加型の取組みを進め、文化芸術事業に取り組む。

〈文化芸術施設の整備・維持管理〉

- 使用料等の定期的な見直しを行い、施設間の均衡、利用者の利便の向上を図る。
- 3つのホール施設について、ホール施設マネジメント方針(案)に基づき、関係団体及び目的別検討会議を開催し、見直しに向けた検討を進める。
- 人形館の魅力を発揮できる効果的な管理運営に努めるとともに、川本人形美術館の指定管理者と連携し魅力アップを図る。
- 施設利用における危機管理マニュアルの共有化に取り組む。
- 美術作品や資料を収蔵保管する場所の確保に向けて検討を進める。

〈参加しやすい鑑賞機会の提供〉

- いいた人形劇フェスタ、オケ友音楽祭、伊那谷文化芸術祭、舞台芸術鑑賞事業等を通じて、市民が多様で質の高い舞台芸術を身近に鑑賞できる機会を提供する。
- 音楽、演劇、落語など市民団体等による鑑賞機会の提供活動を支援する。
- オケ友音楽祭、舞台芸術鑑賞事業などの実施内容を、ニュース等も踏まえて見直し研究を行う。
- 人形劇フェスタにおいては、参加者へのサービス、猛暑対策等の観点から開催期間を6日とし、良好な環境で様々な人形劇を楽しむ機会を提供する。
- 美術博物館では、「美博まつり」や「櫻と夜間開館」、「ミュージアムコンサート」などを行うとともに、「年間パスポート」の普及を進め、市民が親しみやすい施設づくりを進める。
- 美術博物館のプラネタリウム上映では、夏休みや春休み等の期間に、オリジナル番組のみの無料投影を行っていく。

〈自己表現の機会の提供〉

- 人形劇ワークショップ等の成果を踏まえて、フェスタ等発表の機会を提供し、主体的な活動の継続を支援する。
- 伊那谷文化芸術祭を開催し、舞台芸術の発表の機会を提供する。
- 美術博物館では、「現代の創造展」や「子ども美術学校」、「小中高生写真作品展」、「小中学校郡展優秀作品展」、「風越高校書道部展」などを開催する。

〈文化芸術の担い手育成〉

- 市民舞台芸術のレベルアップ活動や新たな舞台芸術を創造する活動など、市民主体の文化活動を支援する。
- オケ友音楽祭クリニックの成果をさらに高めるため、カリキュラムを改善する。H29から小学生を主な対象とした「小学生のための音楽ひろば」を本格的にスタートする。
- 人形劇関係資料の把握及び収集、適切な保存及び利活用を推進する。
- 第42回全国高等学校総合文化祭人形劇部門の飯田市での開催(H30.8/9開催予定)を契機として、高校生・大学生を対象に人形劇活動への支援を行う。
- 「伊那谷の自然と文化」に関する市民研究団体との関係を見直しながら、その活動を一層支援する。
- 美術博物館では、「現代の創造展」や「子ども美術学校」、「子ども写真教室」などを開催する。また、「年間パスポート」会員向けの講座やワークショップ等を継続し、魅力ある「伊那谷の自然と文化」を市民が担えるようにする。また、市民ギャラリーの利用を進めていく。

〈文化芸術による交流〉

- いいた人形劇フェスタを開催し、施策81[交流による高付加価値化・国際化の推進]の展開との連携を図りながら、人形劇を通じた「小さな世界都市づくり」を推進する。H30には、フェスタ20周年を記念し、世界人形劇フェスティバルを開催する。
- 人形劇フェスタにおいては、特色のある活動を行っている地域との交流を継続して実施する。
- AVIAMAやウニマ等を通して、国際的な交流を促進する。H30には、世界人形劇フェスティバルの開催にあわせて、AVIAMA総会の招致が決定している。
- 渋谷区における「飯田の伝統文化・芸能の上演事業」、「南信州交流アート展in渋谷-南信州のアーティストたち-」への協力、支援をする。
- 美術博物館では、当館の企画展等において他館が所蔵している作品や資料を展示するとともに、他館等が行う展示等に作品や資料を貸し出す等の交流を行っていく。